

第25回東北ニュービジネス大賞表彰制度 受賞企業一覧

(敬称略)

【東北ニュービジネス大賞】 ※2社

会社名・代表者名	所在地・TEL・FAX		
株式会社アストラ	〒960-0231 福島県福島市飯坂町平野字平田4-1		
代表取締役 一條 浩孝(いちじょう ひろたか)	TEL 024-541-2444	FAX 024-541-2445	
会社設立	平成3年1月	U R L	http://www.e-astra.co.jp
資本金	1,000万円	従業員数	16人
事業内容 受賞理由	<p>～グローバルニッチトップへの挑戦～</p> <p>電子機器下請会社として創業後、自社開発に取り組んだ「柿の皮むき機」が国内シェア100%近くを占めながらも、弛まぬ研究開発によって様々な果物に対応する小型自動皮むき機「瞬助(しゅんすけ)」が完成した。ニッチな市場であるものの、世界に目を向ければ米国や中国、東南アジアでの果物の膨大な消費量があり、玉ねぎなどの野菜にも応用可能な同社独自の皮むき技術は、海外の展示会でも高く評価(Kichen Innovation Award 金賞)されるなど、世界シェアの拡大・持続可能性を大いに感じさせる。日本のみならず海外においても人件費や人手不足・労働災害問題は共通の課題であり、ニーズを捉えた極めて波及効果の高い事業と評価された。</p>		

会社名・代表者名	所在地・TEL・FAX		
株式会社フォルテ	〒030-0862 青森県青森市古川3-22-3 古川ビル3F		
代表取締役 葛西 純(かさい じゅん)	TEL 017-757-8033	FAX 017-757-8044	
会社設立	平成17年3月	U R L	http://www.forte-inc.jp/
資本金	5,950万円	従業員数	19人
事業内容 受賞理由	<p>～優れた構想力と開発力で地域課題を解決～</p> <p>「人々の生活の豊かさ」「地域目線」をモットーに青森で起業した同社は、様々な形で存在する地域課題あるいは地域資源に対し、最新IT技術・サービスを実装したソリューションを形成・展開している。GPSナビ端末や骨伝導ヘッドセットから始まり、多言語翻訳や人工衛星「みちびき」の信号を受信する位置情報測位システムなど、「福祉」「物流」「観光・インバウンド」「スポーツ」「交通」等の各分野にソリューションを提供する同社の取り組みは、地域に新しい価値を生み出し地域産業の活性化につながるものと高く評価された。同社の優れた技術的基盤の下、社会構造を解析し豊かな発想でこれからも多様化する地域課題を解決すべく、パートナー型ソリューション事業を展開・推進されることを期待したい。</p>		

【東北アントレプレナー大賞】

会社名・代表者名	所在地・TEL・FAX		
マクタアメニティ株式会社	〒960-0703 福島県伊達市梁川町山舟生字高倉22		
代表取締役 幕田 武広(まくた たけひろ)	TEL 024-557-1001	FAX 024-557-1281	
会社設立	昭和63年2月	U R L	http://makuta-amenity.com
資本金	1,600万円	従業員数	1人
事業内容 受賞理由	<p>～生産・流通の仕組みが変わる！「おいしさの見える化技術」～</p> <p>明治時代から蚕種製造を営み、昭和63年に株式会社に改組した同社は、農産物の生産・流通の効率化を図るべく、サプライチェーンマネジメントシステム(以下SCM)を構築し、首都圏の高級スーパー等へ「ブランド農産物」として提供する仕組みを独自に構築・運用していたが、先の原子力災害で一変。そして幕田氏がゼロから執念の再出発で開発した技術が「おいしさの見える化」である。農産物に傷をつけて測るか、あるいは体験でしか語れない「おいしさ」を画像で瞬時に計測するAI・IoTを活用したこの解析システムは、生産者・流通・消費者にとって非常にインパクトのあるツールであり、「SCM」をリンクさせることによる農の第四次産業革命の可能性・将来性、そして何より不屈のチャレンジ精神が高く評価された。</p>		

【ソーシャル アントレプレナー大賞】

会社名・代表者名	所在地・TEL・FAX		
株式会社ゆらリズム	〒981-8002 宮城県仙台市泉区南光台南1-1-3		
代表取締役 野崎 健介(のざき けんすけ)	TEL 022-251-2021	FAX 022-251-2031	
会社設立	平成23年3月	U R L	https://yura-rhythm.com
資本金	653万円	従業員数	26人
事業内容 受賞理由	<p>～地域コミュニティの新たなカタチを求めて～</p> <p>東北福祉大学OBである野崎氏は東日本大震災直前に仙台市泉区で福祉事業を起業。苦難の船出ではあったものの、地域コミュニティの重要性を身をもって実感し、「全国初の音楽リハビリ専門デイサービス」や「障害児の放課後デイサービス」など、人型ロボットも介護の現場に投入するなど、新たな地域コミュニティを模索しながら次々と新規事業を体現している。現在は「不登校予防支援プログラム」も始まり、さらには障害者就労継続施設としての「ゆらリズムCafe」も設立準備中だという。人材不足など様々な課題に直面する介護福祉業界において、社会的意義をもって挑む強い起業家精神を感じさせるとともに、その志が高く評価された。</p>		